

平成19年度

第1回

(地域別研修)

アジア・アフリカ地域畑地帯農業管理普及職員  
実施要領

平成19年6月

独立行政法人国際協力機構 (JICA)

Japan International Cooperation Agency

## 目 次

1. コース基本情報	1
2. コース背景、目的	1
3. 到達目標	2
4. 研修プログラム	2
5. 研修員参加資格要件	3
6. 研修実施体制及び運営	4
7. 研修の評価	5
8. 研修付帯プログラム	5
9. 研修・宿泊施設	6
10. その他	6

### 附 属 資 料

- 付表 1 研修員の業務関連情報
- 付表 2 コースカリキュラム（案）
- 付表 3 平成 19 年度日程表（案）
- 付表 4 年度別受入実績表

## 1. コース基本情報

(1) コース名

和文：(地域別) アジア・アフリカ地域畑地帯農業管理普及職員

英文：Area Focused Training Course in Upland Cereal Crops Management  
for Extension Officers in Asia and Africa

(2) 受入期間

平成 19 年 6 月 3 日 (日) ～平成 19 年 8 月 1 日 (木) (60 日間)

(3) 技術研修期間

平成 19 年 6 月 11 日 (月) ～平成 19 年 7 月 31 日 (火) (51 日間)

(4) 定員、割当国

定 員：10 名

割当国：アフガニスタン、ブータン、エチオピア、ケニア、マラウイ、ネパール、  
パキスタン、ジンバブエ

(下線は受入国)

## 2. コース背景、目的

将来の食料不足が懸念される現在、途上国の主要産業である農業は、現地に合った栽培技術の導入と効率的な普及体制が必要であり、その向上は世界の食料事情や地球環境・国際関係の問題に大いに貢献できる。また同時に途上国の効率的農業振興は、大量の食料輸入国の日本にとって重要であると考えられる。

日本農業がこれまで体験した農業栽培技術の導入とそれに伴う普及体制の習得及び制度の現場を見学することにより、途上国の今後の農業発展に対する方向性に寄与できる。

本コースの総合目標は、作物栽培技術普及における効率的な解決策を習得することにより、農業普及制度確立への向上が期待される。

これらのことから、本研修では効率的作物栽培技術・普及方法を学び、自国の地域課題や問題点に対して、効率的な解決策を策定できる人材の養成を目標とする。

### 3. 到達目標

- (1) 効率的作物栽培技術を習得する（地域の実情に応じた導入すべき普及方法）。
- (2) 効率的普及方法と地域に応じたシステムを習得する。
- (3) 作物栽培普及における自国での地域課題を整理し、技術普及の企画・実施・評価を通して解決策の計画策定ができる。

### 4. 研修プログラム

#### (1) 研修内容

来日後一週間のオリエンテーションの後、帰国までの期間、研修を実施する。主に講義、実習、視察、討論から構成される。

ア. コースカリキュラム（案）（付表 2 参照）

イ. ジョブレポート発表会（Job Report Presentation）

#### (7) 目的

- a. 研修員自身が問題点を再認識する
- b. 研修員相互間で問題意識を共有する
- c. 講師が研修員の業務内容、研修で習得したい技術・知識を理解する

これらの発表を通じ、講師より個々の研修員の期待に対してこの研修でできることできないことを明確に示す意見交換の場とする。

#### (1) 発表内容

J/R 発表会において、各研修員は以下の 3 点について主に発表する

- a. 自国でどのような仕事に従事しているのか
- b. その仕事において現在どのような問題を抱えているか
- c. この研修の中で習得したい技術、知識

## ウ. アクションプラン発表会 (Action Plan Presentation)

### (ア) 目的

- a. 研修員が帰国後に取り組むべき課題を明確にする
- b. 可能な計画の立案能力向上
- c. 研修結果の資料として利用する

### (イ) 発表内容

J/R で提言した問題点、また、研修中に新たに想定された問題点の解決のためのプロジェクトの計画を策定し、その目標達成のための活動計画（アクションプラン）を発表する。

(A/P の必要記載事項として、プロジェクトタイトル、解決すべき問題とそれに対するプロジェクト目標、期間、場所、事業主体、活動内容など、についての記述を求める)

### (2) 使用言語 英語

## 5. 研修員参加資格要件

### 当該コースに関わる General Information 記載条件

- (1) 農業技術・研究開発に取り組み、畑作物（主に小麦、馬鈴薯、豆類）に関し、農民に直接指導をしている者で、帰国後地域農業への技術支援、技術指導ができる農業技術員（大学での研究者・行政官は除く）
- (2) 年齢が25歳から45歳以下で、当該分野で3年以上の経験を有する者
- (3) 畑地実習が多いため、十分な体力があり、女性については妊娠していない者
- (4) 十分な英語能力を有する者
- (5) 大学卒業または同等の学力を有する者

### 各コース資格要件

- (1) 所定の手続により割当国政府から推薦されていること
- (2) 心身共に健康であること
- (3) 軍隊に服役していないこと

## 6. 研修実施体制及び運営

本研修コースは、コースリーダーの助言のもと、独立行政法人国際協力機構帯広国際センター（以下、JICA 帯広）が計画する研修コースの実施に関する業務を、社団法人北方圏センター（以下、NRC）に委託し、関係諸機関の協力により実施・運営するものとし、具体的業務分担は次のとおりとする。

### (1) JICA 帯広

- ア. 研修実施計画書作成（コース目的、到達目標、研修期間など）
- イ. 研修の評価
- ウ. 研修実施予算の執行管理
- エ. 募集要項（G. I.）及び研修実施要領等の作成
- オ. その他

### (2) NRC

- ア. 研修日程表の調整・作成
- イ. 講師、見学先等への連絡・確認
- ウ. テキスト、資料等の手配
- エ. その他

### (3) コースリーダー

研修の計画、実施、評価の全般にわたる技術的助言等

### (4) 研修監理員（Coordinator : CDN）

技術研修期間中、(財)日本国際協力センター（JICE）所属の研修監理員（CDN）を配置し、コース実施・運営の円滑・調整を図る。

- ア. 研修に係る関係者間の連絡調整
- イ. 通訳業務
- ウ. その他

## 7. 研修の評価

### (1) 評価の目的

研修コースの到達目標（1頁参照）に基づき、研修成果の測定、分析を通じてコース終了時に、当初目標の達成度を確認する。また、今後の研修で改善すべき点をあげ、本コースの研修内容の質的改善を図るものとする。

### (2) 評価の方法

ア. コースリーダー等による個々の研修員の到達目標の達成度把握

イ. 個々の研修員による評価（Questionnaire）

ウ. JICAによる評価

### (3) 評価会

研修終了時に研修員が提出する Questionnaire（JICA 所定の様式による質問書）の記載事項の確認を中心とした評価会を実施する。

### (4) 改善検討会

研修員の帰国後に、評価結果に基づき JICA、コースリーダー、講師、NRC 等 が参加し、研修の目的・内容、プログラム構成、指導方法等について協議し、翌年度のコース改善に向けて対応方針を検討する。

## 8. 研修付帯プログラム

### (1) ブリーフィング

研修員来日直後に、JICA 帯広国際センター（以下 JICA 帯広）において実施する。ブリーフィングでは、JICA の業務概要説明及びコース概要、研修員登録、パスポートビザの有効期間確認、支給される諸手当の説明等のほか、日常生活を送る上での諸注意を行う。

### (2) ジェネラルオリエンテーション

JICA 帯広にて実施し、日本の社会と日本人、歴史・文化、経済、教育、政治・行政などの日本事情の紹介を目的とする。

### (3) 日本語講習

研修員は、研修のみならず国際交流事業に役立てるよう、簡単な日常会話程度の語学力修得を目的として10時間の日本語講習を実施する。

#### ブリーフィング・ジェネラルオリエンテーション・日本語講習日程

日 程	内 容
6月4日（月）	ブリーフィング
6月5日（火） 午前	ジェネラルオリエンテーション 講義「日本の社会と日本人」
6月6日（水） 午前 午後	ジェネラルオリエンテーション 講義「日本の政治、行政」「日本の経済」 講義「日本の歴史・文化」「日本の教育」
6月7日（木）	日本語講習
6月8日（金）	日本語講習

## 9. 研修・宿泊場所

独立行政法人国際協力機構帯広国際センター（JICA 帯広）

所在地：〒080-2470 北海道帯広市西20条南6丁目1番地2

Tel：0155-35-2001 Fax：0155-35-2213

## 10. その他

### (1) 修了証書

この研修を修了した研修員にJICAから修了証書(Certificate)を授与する。

### (2) 研修員の待遇

#### ア. 入国資格

日本で技術研修を受けるために来日する者は研修ビザを取得し、日本滞在中は日本国法規の適用を受ける。

## イ. 滞在費

JICA の規程に基づき、本コースの研修を受けるために必要な手当が支給される。

### (3) 開発教育支援

「開発教育」とは、開発途上国の文化、社会、人々の暮らし、日本との関係などを知ることによって開発途上国に関心を持ち、「貧困問題」や「環境問題」など地球全体の構造的な問題を自分の問題としてとらえ、解決のために自ら行動することが必要であるという認識を広めることを目的として小中学校の教育現場で実施されている。JICA はこの「開発教育」の支援に力を入れており、本研修コースの中に、地域の小中学校や地域住民との相互理解のためのプログラムが含まれている。



独立行政法人国際協力機構 帯広国際センター  
〒080-2470 帯広市西20条南6丁目1番地2

TEL : 0155-35-1210 FAX : 0155-35-1250

URL : <http://www.jica.go.jp/worldmap/hokkaidou.html#obihiro>

コースカリキュラム(案)

付表2

(単位:day)

小項目	カリキュラム	講義	実習	視察	討論	担当講師	講義目的	講義内容
<b>到達目標1:効率的作物栽培技術を習得する</b>								
農業の概要	日本の農業	1.0				農業振興公社	日本の農業概要を紹介、課題と問題点の対策を知る	日本の農業の現状、今後の進展方向
	帯広市の農業と技術センターの役割	1.0		0.5		営農課	帯広市の農業の推移と現状及び技術センターの活動、業務内容を知る	帯広市の農業概要を紹介 技術センターの農産係、経営係の業務内容説明及びほ場視察
	畑作農家現地視察				1.0	畑作農家3戸	農家(酪農、新規就農農家、野菜農家等)の現状視察	農家の機械・施設・ほ場を見学
農業の変遷	農業の歴史	0.5				営農課	日本の農業の歴史・変遷を知る	日本の農業の歴史・変遷(ビデオ)
				0.5		百年記念館	十勝の農業の歴史・変遷を知る	農機具・生活用品の展示を通し、十勝農業の歴史を視察
	農業機械			0.5		農業振興公社	昔の農作業機・農具の紹介	昔の農作業機・農具(昔の機械展示庫)
			1.0			大塚農家、公社	畑作農家でのほ場実習	播種機、カルチ、防除機
管理技術	作物栽培管理	4.0	3.0			農業振興公社	作物の栽培管理実習	各種管理作業(耕起・施肥・播種・移植・防除等)の実習
	土壌分析	0.5	0.5			農業振興公社	PH・EC簡易分析	分析実習/硝酸態窒素の土・作物の残留分析実習
	節水・灌水技術	0.5	0.5			農業振興公社	節水・灌水の各種方法の紹介	事例の紹介 (地表・散水・点滴・地中灌水)
関連視察	ファームステイ			2.0		畑作農家	農家の実作業を体験する	農家作業体験 農家の生活体験
	肥料				0.5	帯広有機/JA川西	肥料の配合、農家への配布	肥料の配合の割合の紹介
	有機栽培				0.5	藪田ファーム	野菜の有機栽培手法の紹介	有機栽培農家視察
	道外研修				4.0	姫路市農業センター	都市近郊農家の現状	園芸せんたーの視察
						香川県満濃池土地改良区	水の確保	ため池視察
					埼玉県農林振興センター	農業技術の実証と営農改善	営農組合について	
					種苗メーカー	種子・育苗の現状を見る	種子・育苗の現状の視察	
<b>到達目標2:効率的普及方法・体制を習得する</b>								
試験研究	農業技術開発と技術普及の制度と現状	0.5		0.5		道立十勝農試技術普及部	北海道の試験研究の課題選定から研究成果の過程と、技術普及の制度を学ぶ	研究課題の選定・研究方法・研究成果の活用 普及制度と技術普及の方法
農協	農協の制度と現状	0.5		0.5		JA川西	農協制度を理解し、集出荷の状況を見学する	農協制度・組合員助定制度・生産組合制度と集出荷施設の見学
	農協の地区課題解決手法	0.5				JA大正 営農振興課	地域の課題に対して農家・農協・技術普及員による解決手法を学ぶ	地域課題(土壌改良と土づくり)
技術普及	農業普及事業の現状	0.5			0.5	十勝農業改良普及センター	試験研究結果を農家へ普及させる手法、地域の課題解決手法を学ぶ	試験場からの研究結果の普及方法 農家・農協の課題(土づくり・地域づくり)
農村振興	農村との交流事業				1.0	八千代牧場	農業まつりの意義と状況を理解し、農家グループの活動や農産物・加工品の販売状況視察する	牧場まつり見学
	農村女性の活動				0.5	チャオ代表	農村女性による活動	事例紹介
農業共済制度	農業共済制度	0.5				農業共済組合	共済制度の仕組みと内容	査定の具体的な方法など
学術研究機関	大学の研究と教育の現状	0.5				帯広畜産大学 地域共同センター	大学教育と地域共同研究センターの研究の取り組みを学ぶ	大学の教育研究制度 地域共同研究センターの共同研究の内容
<b>到達目標3:作物栽培普及における自国での地域課題を整理し、解決策の計画策定ができる</b>								
課題の設定	研修課題検討				1.0	営農課 農業振興公社	研修員の仕事内容を把握し課題を整理する	課題の選定と分担
解決策の手法	PCM研修				2.0	コンサルタント(未定) 営農課/公社	研修員の課題解決のため、問題整理・解決手法を学ぶ	ワークショップによるPCM研修
解決策の構築	アクションプランの検討				1.0	営農課 農業振興公社	研修員のアクションプランの具体化	アクションプランの具体的計画づくり
	総合検討会				2.0	営農課 農業振興公社	課題別に研修員間でアクションプランの内容を検討	アクションプラン内容の具体策について検討
	アクションプラン実施検討				1.0	営農課 農業振興公社	アクションプラン発表指導	アクションプランの個別指導
<b>その他</b>								
発表会	J/R発表会				0.5			
	A/P発表会				0.5			
学校訪問				1.0				

(小計)

6.0

7.0

2.0

(小計) 10.5 7.0 11.0 8.5

37.0

## 平成19年度日程表(案)

月/日	曜	区分	時刻	カリキュラムとその内容	担当機関・担当者	研修場所
6/3	日			来日		
6/4	月			入館式、集合ブリーフィング		
6/5	火			ブリーフィング、オリエンテーション	NRC	OBIC
6/6	水			ジェネラルオリエンテーション		
6/7	木		9:30~16:00	日本語講習		
6/8	金		9:30~16:00	日本語講習		
6/9	土			休日		
6/10	日			休日		
6/11	月		9:00~9:30	市長表敬	帯広市役所	
			10:00~12:00	コースオリエンテーション	帯広市農業振興公社・森脇C/L	
6/12	火	検討会	13:30~16:30	研修課題検討会(1)	農政課:武田、振興公社:森脇	JICA帯広
		検討会	9:30~12:00	研修課題検討会(2)	農政課:武田、振興公社:森脇	JICA帯広
6/13	水	発表会	14:00~16:30	ジョブレポート発表会	関係講師	
		講義	9:30~16:30	農業概要(1)日本の農業	帯広市農業振興公社・森脇C/L	農業技術センター
6/14	木	講義	9:30~15:00	農業概要(2)帯広市の農業/農業技術センターの役割	農政課:武田	農業技術センター
		視察	15:00~16:30	帯広市農業技術センターほ場視察	農政課:磯野	農業技術センター
6/15	金	講義	9:30~12:00	農業概要(3)十勝農業の変遷(ビデオ2本)	振興公社:中井	農業技術センター
		視察	13:30~16:00	百年記念館・中古機械展示見学	百年記念館、振興公社:中井	百年記念館
6/16	土			休日		
6/17	日		10:30~14:00	八千代牧場まつり	農政課 宮脇課長	八千代牧場
6/18	月	講義/視察	9:30~12:00	農協の施設	JA川西 常田所長(別府事業所)	JA川西別府事業所
		講義	13:30~16:30	農協の制度と業務	JA川西 遠藤参事	JA川西
6/19	火	講義・実習	9:30~16:30	栽培技術の実態と技術習得1 穀類(小豆・豆類)	振興公社:鳥倉・中井 補助:1人	農業技術センター
6/20	水	講義・実習	9:30~16:30	栽培技術の実態と技術習得2 根菜類(馬鈴薯・てん菜)	振興公社:鳥倉・中井 補助:1人	農業技術センター
6/21	木	視察	9:30~15:00	農家現地視察/酪農・畑作・野菜・有機栽培農家	廣瀬・大塚・笹原・藪田	市内農家ほ場
6/22	金	実演・実習	9:30~12:30	農業機械実習・播種機・カルチ・防除機・他	農家:大塚正昭 振興公社:中井	農業技術センター:圃場
		検討会	14:00~15:00	農業機械実習に関するQ&A	振興公社:中井	農業技術センター
6/23	土			休日		
6/24	日			休日		
6/25	月	ワークショップ	9:30~16:30	PCM研修	グローバルリンクマネージメント	JICA帯広
6/26	火	ワークショップ	9:30~16:30	PCM研修		
6/27	水	講義・実習	9:30~16:30	作物栽培管理実習1 耕起・施肥の方法	振興公社:鳥倉・中井 補助:1人	農業技術センター
6/28	木	講義・実習	9:30~16:30	作物栽培管理実習2 作物の播種・移植	振興公社:鳥倉・中井 補助:1人	農業技術センター
6/29	金	講義・実習	9:30~16:30	作物栽培管理実習3 病害虫と雑草の管理	振興公社:鳥倉・中井 補助:1人	農業技術センター
6/30	土			休日		
7/1	日			休日		
7/2	月	講義	9:30~16:30	病害虫の対策と管理	振興公社:鳥倉	農業技術センター/センター内圃場
7/3	火	講義・実習	9:30~16:30	生育調査実習	振興公社:森井・中井 補助:1人	農業技術センター
7/4	水	討論	9:30~16:00	アクションプラン技術検討会	農政課:武田、振興公社:森脇	農業技術センター
7/5	木	視察		学校訪問		
7/6	金	実習	9:30~	農家滞在研修:ファームステイ(1)	畑作農家5戸	畑作農家
7/7	土	実習	~12:00	農家滞在研修:ファームステイ(2)	畑作農家5戸	畑作農家
7/8	日			休日		
7/9	月	講義	9:30~12:00	節水かん水技術の紹介	農政課:磯野	農業技術センター
		実習	13:30~15:30	作物栽培管理実習4 節水灌水	農政課:武田	農業技術センター
		視察	15:30~16:30	JA川西 肥料工場視察	JA川西 山下課長(購買部)	JA川西肥料工場
7/10	火	講義	9:30~16:00	農業技術開発と技術普及の制度と現状	十勝農業試験場技術普及部:白旗	北海道立十勝農業試験場
7/11	水	講義	9:30~12:00	農業普及事業の現状と仕組み	十勝農業改良普及センター:菊地次長	十勝普及センター
		実践	13:30~16:00	農業普及事業の現状と仕組み(実践)	普及センター/振興公社 森脇	
7/12	木	実習	9:30~12:00	簡易土壌分析の習得(分析器、PHほか)	農政課:武田	農業技術センター
		講義	13:30~15:00	土壌分析結果の活用と質疑		
		視察	15:30~16:30	帯広有機:有機肥料の製造視察	帯広有機:藤沢	帯広有機
7/13	金	講義	9:30~12:00	農業共済制度	十勝農業共済組合農作物係長:西田	農業技術センター
		講義	13:30~16:00	指定病害対策(BSE・シストセンチュウ)	帯広市農政課 畜産係:大橋、農産係:磯野	
7/14	土			休日		
7/15	日			休日		
7/16	月			祝日(海の日)		
7/17	火	講義・視察	9:30~12:00	大学の研究と教育の状況	畜産地域共同研究センター長 関川	畜産大学地域共同研究センター
		視察	13:30~16:30	甜菜の栽培技術・ビート資料館見学	日本甜菜製糖(株)内野	ビート資料館
7/18	水	討論	9:30~12:00	農業者の取組み(技術普及分野における取り組み)	畑作農家(中藪)	農業技術センター
		視察	13:30~16:00	農村女性の活動事例紹介	チャオ代表 児玉珠実	広野町児玉農場
7/19	木	討論	9:30~16:30	アクションプラン総合検討会1	農政課:武田、振興公社:森脇C/L	農業技術センター
7/20	金	討論	9:30~15:00	アクションプラン総合検討会2	農政課:武田、振興公社:森脇C/L	農業技術センター
7/21	土			休日		
7/22	日	移動		帯広 京都		
7/23	月	視察		道外研修:タキイ種苗	タキイ種苗(株)研究農場	タキイ種苗
7/24	火	視察		道外研修:都市近郊農業センター	姫路市農業センター	姫路市
7/25	水	視察		道外研修:溜池による灌水施設活用農業の現地視察	香川県満濃池地区改良区	香川県満濃池
7/26	木	移動		洲本市 東京		
7/27	金	視察		道外研修:東京近郊の農業の現状視察	埼玉県農林振興センター普及部(予定)	埼玉県浦和市
7/28	土	移動		東京 帯広		
7/29	日			休日		
7/30	月	討論	9:30~16:30	アクションプラン実施検討会3	農政課:武田、振興公社:森脇C/L	農業技術センター
7/31	火	討論	11:00~12:00	評価会	森脇C/L	JICA帯広
		討論	13:00~14:00	講師による評価会	農政課:振興公社	
		発表会	14:00~16:00	アクションプラン発表会	関係講師	
			16:30~18:00	閉講式・閉講パーティ	関係者	
8/1	水			帰国		

## 年度別受入実績表

### 1. 応募/選定(受入)人数

	平成19年度	累計
応募数	12名	12名
受入数	10名	10名

### 2. 国別受入人数

男性 女性

国名	平成19年度	累計
(アジア地域)		
ブータン		2名
ネパール		2名
(アフリカ地域)		
ケニア		2名
マラウイ		2名
ジンバブエ		2名
合計	5カ国 10名	5カ国 10名